



湊公園入口辺 (画:清水喜輝氏)



ロータリー： 変化をもたらす

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

WEEKLY REPORT

No.2918 2018年3月12日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目 8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内
 TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30
 FAX.029(263)6859 例会場 常陽銀行湊支店二階会議室
 URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

★点 鐘

黒澤利勝幹事
 ロータリーソング「奉仕の理想」
 司会 黒澤利勝幹事

★出席報告

榎木直行委員長
 会 員 数 28名
 出 席 者 9名
 欠 席 者 19名
 出席免除者 1名
 メークアップ 7名
 出 席 率 37%

★会長挨拶

黒澤利勝幹事
 本日会長が急用のため、遅れて参ります。のちほどの挨拶となると思います。

★幹事報告

黒澤利勝幹事
 永年勤続等表彰者の推薦(案)及び表彰規定(案)について協議の結果可決されました。以下の通りとなります。

永年勤続等表彰者の推薦について

職業奉仕委員長 遊座文郎

ロータリー職業奉仕委員会の事業として本年

度より那珂湊地区に於いて企業の発展及び地域に貢献されている方に対し表彰を実施致します。

別添表彰規定をご確認の上、推薦を希望される方は下記に必要事項をご記入の上お申し込みください。表彰式については以下の日程になります。

表彰式: 4月16日(月)午後6時30分から
 (観桜会に併せて実施)

会 場: 藤屋ホテル
 (表彰規定は省略)

★卓 話

画歴の始まり

根本 隆会員



那波多目功一が初めて絵筆を執ったのは高校生の時である。それまで絵には全く興味を示さ

なかった那波多目が突如として描くことを決意した理由は、再興院展で落選が続いていた父の無念を見かねたためであった。那波多目はまず自宅からほど近い雑木林にこもって写生をすることから始めた。父からは絵の具の溶き方などは教えてもらったが、描き方は教わらなかった。そして初めて描いた風景画「松山」は、見事に再興第35回院展に初入選する。高校2年生の時であった。対象をただ見ることに徹し、ひたすら真正直に描いたこの作品は、まさに画家那波多目功一の出発点といえるだろう。さらにその翌年には日展に初入選して周囲の日を見張らせるが、卒業後はサラリーマンとしての人生を選び、年に1度のペースで制作を続けながら日展、のち院展に出品していくようになる。

【略年譜】

◇昭和8年(1933) 0歳
11月8日 茨城県那珂郡湊町南水主町5832(現在のひたちなか市湊中央一丁目)に那波多目弘、うめの長男として生まれる。本名功一。父弘は雑貨商を営む一方、木村武山、中村岳陵(がくりょう)に師事して「龍歩(りゅうほ)」、のち「燈星(こうせい)」と号した日本画家であった。
◇昭和21年(1946) 13歳
3月 那珂湊第一国民学校(現在の那珂湊第一小学校)を卒業する。
◇昭和24年(1949) 16歳
3月 那珂湊中学校を卒業する。
4月 県立那珂湊第一高等学校に入学する。
秋頃 院展で落選の続く父に代わって入選することを決意し、絵を描き始める。
11月 水戸日本画会展に出品。奨励賞を受賞する。
◇昭和25年(1950) 17歳
5月16日～5月19日 白牙会創立25周年記念展(茨城会館)に「松山」を出品。水戸市長賞を受賞する。
9月1日～9月19日 再興第35回院展(東京都美術館)に、自宅近くの風景を写生に徹して描いた「松山」が初入選する。
◇昭和26年(1951) 18歳
5月17日～5月23日 第5回春季県展(茨城会館)に「倒影」を出品。知事賞を受賞する。
10月28日～11月28日 第7回日展(東京都美術館)に「秋影」が初入選する。院展ではなく日展に出品するようになったのは、当時那波多目の周辺では日展の方がよく知られていたこと、また父の画家仲間が落選ばかりの父を悪く言うのをやめなかったため、日展に入選することでそれを見返したいと考えたためであった。
◇昭和27年(1952) 19歳

3月 茨城県立那珂湊第一高等学校を卒業。父は息子の画才を認めて画家になるよう弓重く勧めたが、那波多目は生活の糧を得るには絵描きでは困難と考えて就職することを決め、代わりに年に一度の出品画制作を父に約束する。

秋 凸版印刷株式会社に入社、板橋工場に勤務する。これに伴い単身で上京し、東京都北区田端に住む。

10月29日～12月1日 第8回日展(東京都美術館)に「三反田風景」を出品する。

◇昭和28年(1953) 20歳

10月29日～12月1日 第9回日展(東京都美術館)に「樹」を出品する。

この年 家族が茨城から上京し、東京都豊島区駒込1-40に居を移す。

◇昭和29年(1954) 21歳

10月29日～12月1日 第10回日展(東京都美術館)に「立木」を出品する。

この年 凸版印刷を退社して弟と共同経営する株式会社東邦ケミカル(ビニール、プラスチック加工製造)を設立する。

この年 東京都北区西ヶ原1-64-4に居を移す。

◇昭和31年(1956) 23歳

10月28日～12月1日 第12回日展(東京都美術館)に「巖」を出品する。

◇昭和32年(1957) 24歳

11月15日～11月24日 第12回茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立美術館)に「松」を無鑑査出品する。

◇昭和33年(1958) 25歳

11月2日～12月8日 第1回日展(東京都美術館)に「お塚の松」を出品する。

11月15日～11月24日 第13回茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立図書館)に「南天」を無鑑査出品する。

◇昭和34年(1959) 26歳

6月 茨城日画会の結成に創立会員として参加する。

11月1日～12月6日 第2回日展(東京都美術館)に「少女」を出品する。

11月14日～11月23日 第14回茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立図書館)に「風景」を無鑑査出品する。

◇昭和35年(1960) 27歳

11月1日～12月6日 第3回日展(東京都美術館)に「彩秋」を出品する。共に日展に出品していた父がこの翌年頃に岳陵門下を離れたこともあり、那波多目の日展への出品はこれが最後となる。

11月11日～11月20日 第15回記念茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立図書館)に「習作」を無鑑査出品する。

◇昭和36年(1961) 28歳
11月11日～11月20日 第16回茨城婦美術展貴会(日本画会場:茨城県立図書館)に「けしの花」を無鑑査出品する。

◇昭和37年(1962) 29歳
10月 山梨県出身の上小沢竹子と結婚する。
11月17日～11月26日 第17回茨城県美術展発会(日本画会場:茨城県立図書館)に「風景」を無鑑査出品する。

◇昭和39年(1964) 31歳
4月 長男雅之誕生。
11月9日～11月18日 第19回茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立図書館)に「蘭」を無鑑査出品する。

◇昭和40年(1965) 32歳
3月30日～4月4日 第20回春の院展(三越日本橋本店)に「静物」を出品する。この頃より再び院展に出品するようになる。
10月 長女京子誕生。
11月9日～11月18日 第20回茨城県美術展覧会(日本画会場:茨城県立図書館)に「静物」を無鑑査出品。教育長賞を受賞する。

◇昭和41年(1966) 33歳
9月1日～9月20日 再興第51回院展(東京都美術館)に「庭」を出品する。この頃から西洋絵画の影響を強く受けるようになる。また次第に写生から離れ、画面に砂や布を貼り付けたりするなど制作の上でも様々な試行錯誤を繰り返す。

◇昭和42年(1967) 34歳
9月1日～9月20日 再興第52回院展(東京都美術館)に「夜」を出品。日本美術院院友に推挙される。

◇昭和43年(1968) 35歳
9月1日～9月20日 再興第53回院展(東京都美術館)に「苑」を出品する。この後しばらくは会社での仕事などが忙しく、春・秋の院展とも、出品しないか、または選外となっている。

◇昭和47年(1972) 39歳
7月 岳陵門下で父の友人であった岡田青慶の紹介で松尾敏男に会い、下図を見てもらう。松尾に師事を願い出るが、松尾の師である堅山南風の門に入ることを勧められる。
(中略)

◇平成元年(1989) 56歳
1月10日～1月17日 院展受賞作家新作展(銀座松坂屋)に「海の幸」を出品する。
3月28日～4月9日 第44回春の院展(三越日本橋本店)に「清農」を出品。奨励賞を受賞する。
4月6日 父燧星没。
5月25日～5月31日 第2回遊騎会日本画展(サカモト画廊)に出品する。
6月4日～6月10日 春秋の譜日本画展(松屋

銀座)に「春」を出品する。
9月1日～9月16日 再興第74回院展(東京都美術館)に「雨の白王」を出品。奨励賞を受賞する。
9月11日～9月16日 松頼会日本画展(栗津画廊)に「秋の果実」「緑陰」「爽花」を出品する。
10月26日～10月31日 第31蒼穹会全日本展(銀座松坂屋)に「赤いバラ」「春の宵」を出品する。

◇平成2年(1990) 57歳
1月10日～1月17日 院展受賞作家新作展(銀座松坂屋)に「雪椿」を出品する。
4月3日～4月15日 第45回春の院展(三越日本橋本店)に「泳」を出品。奨励賞を受賞する。
5月25日～5月31日 第3国遊騎会日本画展(サカモト画廊)に出品する。
7月3日～7月9日 春秋の譜日本画展(松屋銀座)に「黒ぼたん」「宵月」を出品する。
9月1日～9月16日 再興第75回院展に「月輪」を出品。日本美術院賞を受賞する。
10月25日～10月30日 第4回蒼穹会日本画展(銀座松坂屋)に「華」「寒牡丹」を出品する。
10月27日 日本美術院同人に推挙される。

◇平成3年(1991) 58歳
1月10日～1月16日 院展受賞作家新作展(銀座松坂屋)に「椿と白梅」を出品する。
3月26日～4月7日 第46回春の院展(三越日本橋本店)に「夕映え」を出品する。
5月25日～5月31日 第4回遊騎会全日本画展(サカモト画廊)に「牡丹花」を出品する。
7月2日～7月8日 春秋の譜日本画展(松屋銀座)に「宵」を出品する。
9月1日～9月16日 再興第76回院展(東京都美術館)に「夕照」を出品する。
10月24日～10月29日 第51回蒼穹会日本画展「銀座松坂屋」に「薫風」「長春花」を出品する。

◇平成4年(1992) 59歳
3月31日～4月12日 第47回春の院展(三越日本橋本店)に「春の輝り」を出品する。
5月14日～5月19日 前田青邨賞10回記念受賞作家新作展(銀座松坂屋)に「宵ばら」を出品する。
5月25日～5月30日 第5回遊騎会日本画展(サカモト画廊)に出品する。
6月18日～6月23日 第1回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「花菖蒲」を出品する。
9月1日～9月16日 再興第77回院展(東京都美術館)に「春の宵」を出品する。
10月22日～10月27日 第6回蒼穹会日本画展(銀座松坂屋)に「黒ぼたん」を出品する。
この年から3年間 NHKテレビテキスト『NHK趣味百科短歌』の表紙を描く(平成4年4月～5月号～平成6年2月～3月号)。

◇平成5年(1993) 60歳
1月5日～2月14日 花鳥の薫り那波多目功一

展(常陽藝文センター)が開催され、9点が展示される。

3月30日～4月11日 第48回春の院展(三越日本橋本店)に「つるばら」を出品する。

5月24日～5月29日 第6回遊騎会日本画展(サカモト画廊)に「薔薇」を出品する。

6月17日～6月22日 第2回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「赤いバラ」を出品する。

9月1日～9月16日 再興第78回院展(東京都美術館)に「憩う」を出品する。

10月5日～10月17日 再興日本美術院80年記念展(日本橋三越本店)に「月輪」(再興第76回院展出品作)が出品される。

◇平成6年(1994) 61歳

3月29日～4月10日 第49回春の院展(三越日本橋本店)に「想春」を出品する。

5月4日～5月9日 四季譜図那波多目功一素描展(松屋銀座)が開催される。

5月25日～5月31日 第7回遊騎会日本画展(サカモト画廊)に「富貴」を出品する。

5月28日 母校である茨城県立那珂湊第一高等学校にて絵画展示会が開催され、「秋影」「風化」「牡丹」を含む4点が一般公開される。

6月16日～6月21日 第3回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「赤いバラ」を出品する。

(中略)

◇平成18年(2006) 73歳

3月28日～4月9日 第61回春の院展(三越日本橋本店)に「石楠花」を出品する。

4月1日～6月11日 写意のかたち那波多目功一デッサン展(常陽重文センター)が開催され、前期、後期合わせてスケッチなど29点が展示される。

4月 第9回鹿山会日本画展(和泉画廊)に「涼の朝」を出品する。

6月14日～6月20日 第15回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「千成」を出品する。

6月 日本美術院理事となる。

7月5日～7月15日 第22回草々会展(清月堂画廊)に「緑映」を出品する。

9月1日～9月16日 再興第91回院展(東京都美術館)に「昇陽(ディアナ神殿)」を出品する。この年から翌年にかけてNHKテレビテキスト『趣味の園芸』の表紙を描く(4月号～平成19年9月号)。

◇平成19年(2007) 74歳

2月28日 紺綬褒章を受章する。

3月27日～4月8日 第62回春の院展(三越日本橋本店)に「朧(おぼろ)」を出品する。

4月16日～4月21日 第10回鹿山会日本画展(和泉画廊)に「昇陽」を出品する。

4月25日～6月23日 日本画「今」院展(パリ・三越エトワール)に「富貴譜」(再興第84回院展出品作)が出品される。

6月13日～6月19日 第16回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「黒ばら」を出品する。

7月4日～7月14日 第23回草々会展(清月堂画廊)に「早春」「実り」を出品する。

9月1日～9月16日 再興第92回院展(東京都美術館)に「惜春」を出品する。

11月28日～12月4日 四季の花々と那波多目功一日本画展(山陽百貨店)が開催され、「湖上富士」など29点が展示される。

12月4日～12月10日 花彩々那波多目功一新作展(天満屋岡山店)が開催され、「秋桜に富士」など21点が展示される。

◇平成20年(2008) 75歳

4月1日～4月13日 第63回春の院展(三越日本橋本店)に「酔芙蓉」(No.60)を出品する。

4月29日 旭日中綬章を受章する。

6月11日～6月17日 第17回無名会日本画展(銀座松坂屋)に「ばら図」を出品する。

9月1日～9月15日 再興第93回院展(東京都美術館)に「北城の春」を出品する。

11月 第23回国民文化祭・いばらき2008美術展の日本画部門審査員を務める。

11月22日～翌年1月18日 那波多目功一牡丹幻想一花のいのちに魅せられてー(茨城県天心記念五浦美術館)が開催され、本画61点、小下絵31点、スケッチ45点の137点が展示される。

*本年譜は、作家本人からの聞き取り及び同氏提供の資料などをもとに稲葉睦子が編集した。

*展覧会の出品については、再興院展、日展、主要なグループ展、個展を中心に記載した。

*本展覧会の出品作品については、初出のみ作品名に続けて本展の出品番号を付した。

*個展以外の巡回展は最初に開催された会場のみを記載した。

本年譜の作成にあたっては、和泉画廊、NHK出版、銀座清月壁画廊、銀座松坂屋、サカモト画廊、日本棋院等関係各機関のど協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」